

会議録

会 議 の 名 称	第5回 清須市公共施設個別施設計画（仮称）策定委員会
開 催 日 時	令和元年11月19日（火） 午後2時～3時30分
開 催 場 所	清須市役所 南館3階 大会議室
議 題	1 あいさつ 2 議題 (1) 学生対象ワークショップの実施報告について (2) 清須市公共施設個別施設計画（案）について (3) モデルケースの検証結果について 3 その他
会 議 資 料	資料1 学生対象ワークショップの実施報告 資料2 清須市公共施設個別施設計画（案）【概要版】 資料3 モデルケース検証結果①・② 資料4 清須市公共施設個別施設計画（案）
公 開 ・ 非 公 開 の 別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍 聴 人 の 数 （公開した場合）	0人
出 席 委 員	小松委員（委員長）、後藤委員（齋藤氏代理出席）、飯田委員、西川委員、葛谷副市長、斎藤教育長、平子総務部長
欠 席 委 員	富田委員
事 務 局	〔総務部財政課〕 山下総務部参事、岩田課長、炭竈係長、清本主任、岩田主事
<p>1 あいさつ （岩田課長） 皆様、こんにちは。財政課長の岩田です。 本日は、お忙しいところ、本策定委員会にご出席いただき、ありがとうございます。 この会議は、規定により公開となります。よろしく願いいたします。 それでは、第5回策定委員会を開会いたします。始めに、市を代表し、葛谷副市長から、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>（葛谷副市長） 改めまして皆様こんにちは。副市長の葛谷でございます。 本日は大変お忙しい中、本策定委員会にご出席いただきありがとうございます。 昨年度に引き続き、5回目の会議であります。今回はこれまで協議してきた内容について、計画(案)ということで皆様にお配りさせていただいております。 さて、前回の会議で議論しました適正配置方針に沿った施設配置を実施することによって、将来に向けての財政の持続性を確保するとともに、人口減少社会を見据えた施設のあり方を考えながら、清須市民の利便性を良くするための計画(案)となっております。</p>	

今後は、全員協議会で市議会へ報告し、年明けに市民説明会、その後パブリック・コメントに出していくということで、広く市民の皆様のご意見をお伺いするプロセスを予定しております。

本日この場にお集まりの皆様にはそのことをしっかりと認識していただき、活発な議論を期待して私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 議題

(岩田課長)

それでは、ここからは、小松委員長に会議の取り回しをお願いします。小松委員長、よろしくお願いいたします。

(小松委員長)

改めまして、みなさんこんにちは。

会議の取り回しを、ということですので、議題に移っていきますが、その前に、今回代理出席の方がいらっしゃいますので自己紹介を、お名前、所属など簡単に結構でございますので、お願いしたいと思います。では、齋藤さんお願いします。

(齋藤氏)

体育協会の副会長をしております齋藤と申します。本日は後藤会長の都合が悪く、代理で出席させていただきました。よろしくお願いいたします。

(小松委員長)

齋藤さんありがとうございました。

では、議題に移りたいと思いますが、本日は、これまで取組んできた清須市公共施設個別施設計画(案)を中心に事務局から説明していただきたいと思います。

それではお手元の次第をご覧ください。

本日は議題(1)「学生対象ワークショップの実施報告について」、議題(2)「清須市公共施設個別施設計画(案)について」、議題(3)「モデルケースの検証結果について」の3つの議題を議論してまいりたいと思います。

議題(1)から議題(3)について、一括して事務局から説明してください。

【事務局より議題(1)から議題(3)を説明】

(小松委員長)

ただいま事務局から、議題(1)から(3)の説明をしていただきましたが、資料の量が多いため、議題を分けてご意見いただこうと思います。

まず、議題(1)についてはいかがでしょうか。

(小松委員長)

議題(1)で報告いただいた学生対象のワークショップについては、本計画の方向性と合致しているものと思います。また、学生の意見を計画案に反映されているのではないかと思います。

では、議題(2)にまいりたいと思います。

議題(2)では、前回の会議でお示した、清須市における公共施設の適正配置方針に加え、整備工程をまとめたロードマップやライフサイクルコストの試算、今後の取組などをまとめた清須市公共施設個別施設計画(案)の内容の説明がありました。

議題(2)についてはいかがでしょうか。

(齋藤氏)

厳しい財政状況の中、行政だけではなく民間が別の手段で活躍することで、市民の生活がより豊かになると思われ、本計画の基本方針としては賛同できる内容となっている。一方、個別の施設毎の方針を見た場合、保育園のほとんどの施設が民営化という方針となっているのが特徴的であるが、民間は採算性を重要視するという中で、一定期間は保育園としての機能を維持させるなど、民営化するには一定の条件を設けるものなのか教えていただきたい。

(事務局)

保育園・幼稚園の民営化については様々な手法が考えられる。

過去の市内の事例では、夢の森認定子ども園については、認定子ども園として運営することを条件として設けた上で、廃園後の園舎を無償譲渡し、学校法人負担で園舎を改修し民営化した。

民営化に当たっては、その時々々の保育ニーズ等に応じて、民間事業者との調整の上、決定していくことになると思われる。

(平子総務部長)

過去の市内の事例では、西枇杷島第二幼稚園の建物を民間に譲渡する際、介護、福祉目的として活用する最低限の年数を条件として設けた上で売却した。現時点では民間の資金に期待するところが多く、本計画に示すような民営化の方針としているが、民営化を実施する際には、その時々々の時代の流れに応じて、設けるべき条件を検討することになると思われる。建物の改修費用等のハード面での費用負担についても同様に、その時の状況に応じて、行政か民間かを決定していくことになると思われる。

(齋藤氏)

昨今のニュースで目にするように、補助金の不正利用や職員数の偽装など、民営化によるリスクは少なからず生じるため、その時の子供数や施設の受け入れ状況等によって、柔軟に対応できるような条件を検討していくことが重要であると考えられる。

(西川委員)

一部の保育園を民営化する検討という方針であるが、決定事項ではないという理解でよいか。民間活力を必要とする昨今の社会情勢は理解しているが、職員数や園児の受け入れ状況といった市の保育状況については、行政と民間で常に情報共有できるようなシステムを構築しなければ、今後の保育ニーズに適切に対応していけないと考えられる。

(平子総務部長)

本計画は建物に主眼を置いた計画であるため、ソフト面での個別の対応は、各々の事業の実施段階で検討していくことになると思われる。今後の民営化に向けては、市の子育ての基本方針に合致した業者を選定するとともに、行政としても十分に関わり合っていくことが重要であると考えている。

(西川委員)

本計画にあるように、安定的かつ質の高い保育・教育サービスの提供に向けて、慎重な業者選定をお願いしたいと考えている。子供を預ける立場として、これまでは行政という安心感があったが、昨今のニュースを拝見すると、民営化への不安を感じる人が多い状況である。そのため、民営化しつつ、ゆとりのある保育園の運営を実現するためには、市のバックアップ体制を示すなど、市民が安心できるような具体策を示していただく必要があると感じている。

(小松委員長)

本計画の今後の取組にあるように、今後は公共施設を利用する側、預ける側の発想で考え、情報公開しながら進めていただきたいと考えている。本計画は、建物の老朽化や財源不足といった現時点での課題を克服するために、延床面積の縮減という目標から始まったものであるが、今後は費用や面積ありきではなく、市民ニーズに応じたサービスの提供ができるように、各々の事業で詳細に検討していく必要があると思われる。関係者同士で目を光らせながら、市民も計画に参画しながら進めていくことが重要である。他の自治体も同様の課題を抱えているが、費用面から機械的に事業を進めていくのではなく、その時の社会情勢に応じてケースバイケースで検討し、市民の参画・協働の中で、お互いに知恵を出し合っていけるかが共通の課題である。市としては、保護者向けのワークショップなど、市民の声を聞けるような場を設けることが重要であり、また市民としても積極的に参加していくことが重要である。

(西川委員)

行政と民間の双方により、得意な分野を融合しながら、より良い形になるように取組んでいただきたいと考えている。

(小松委員長)

計画は作成して終わりではなく、今後も継続的に見直しを図っていくことが重要である。

(齋藤氏)

本計画は、現在の状況から事務局が机上でまとめたものであり、具体的には年度毎に見直しを図りながら実施していく必要があると考えている。プールの統合など、いずれの事業においても実施段階においては市民の方から多くの反響があり、それらをまとめるのは市としても勇気がある仕事であると思うが、是非頑張っていただきたいと思う。

また、公共施設の他に、道路や公園といったインフラに対しても同様の考えをもって取り組んでいく必要があると思われる。部署毎の予算の取り合いといった縦割りの行政ではなく、市民のための施策となるように、市長を筆頭にして横断的に取り組んでいただきたいと考えている。

(小松委員長)

議題③も含めて、何かご意見ありますでしょうか。

(小松委員長)

資料2の「Ⅶ モデルケースの検討」の「1 保健センターの統合と集会施設との複合化」において、留意点として公共交通機関からの距離に配慮した施設整備が必要とあるが、これはどういった意味か。

(事務局)

現在4つある保健センターを1つに統合することで、地域によっては保健センターが遠くなるという課題への対応として、例えばコミュニティバスの路線を増設する等、利用者の利便性に配慮した施設整備をするという意味である。

(小松委員長)

その意味合いがわかるような表現にすべきである。

(事務局)

資料を修正し、わかりやすい表現に変更する。

(小松委員長)

中長期的なライフサイクルコストの試算によると、充当可能な予算額の見込みを上回るような一定年度への集中が見られるが、どのような財源確保を想定しているか。

(事務局)

ハード整備に関しては建設地方債による対応が中心になると考えられる。また、特定目的基金に係る条例の規定に合致する施設の改修等を行う場合には、並行して特定目的基金に積み立てるという対応も考えられる。

(飯田委員)

旧4町の名残により、現在の公共施設の保有量は多すぎると感じており、そのような背景の下、健全な運営に向けての方針が適切にまとめられている本計画に対し、異存はないと考えている。民営化の推進により新たな活力が生まれるなど、時代の流れに応じた統廃合等の施策は必要であり、受益者である利用者も、従来通りではなく協力体制を示すことが必要である。

(小松委員長)

本計画を具現化していく中で、委員会の設立や専門部署の発足など、部署横断的に進める上での考えがあれば教えていただきたい。関係部署のみで検討した場合、市全体としては最適解にならない場合があることから、市としてどのようにコントロールし、チェック機能を働かせるかが重要であると考えられる。

(事務局)

今後の推進体制については、現段階では決まっていないが、ロードマップで示した検討会の時期を目指して、縦割りではなく市長、副市長の意向を踏まえて、財政課も関わりながらより良い内容にしていきたいと考えている。

(小松委員長)

公共施設マネジメント専門の部署や市長が入った検討委員会など、横串の刺し方は様々であるが、公共施設マネジメントをマネジメントする仕組みを早急に検討すべきであると思われる。ローカルで検討した場合、その時々で都合よくまとめられる可能性が危惧されるため、利用者目線での意見も取り入れながら、実効性のある計画にしていきたいと考えている。

3 その他

(小松委員長)

つづきまして、「その他」ですが、本日の会議全体を通しまして、何かご意見・ご質問等がございますか。

それでは、本日の事務局からの説明については、ご了承いただけたということで、今後はこの個別施設計画（案）の公表に向けた取組を進めていくことと思います。

では、以後の進行は、事務局へとお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

(炭竈係長)

本日はありがとうございました。

本日ご説明いたしました清須市公共施設個別施設計画（案）につきましては、今後市議会に対して内容を説明し、来年1月下旬に市民説明会を実施するとともに、2月から3月にかけてパブリック・コメントを実施してまいります。

その後、パブリック・コメント等の結果を踏まえて、3月中旬頃に第6回の策定委員会を開催し、3月末に計画書の公表を行うスケジュールとなります。私からは以上です。

(岩田課長)

長時間にわたり、どうもお疲れ様でした。本日、財政課管財係から説明いたしました内容につきまして、ご不明な点などがございましたら、何なりとお問い合わせいただければ幸いです。

以上で、第5回策定委員会を閉会いたします。

本日はお忙しいところご出席いただき、ありがとうございました。